

●新会員代表者紹介

棟方 信彦

(むなかたのぶひこ)



松山東雲女子大学  
学長

磯村滋宏学長の退任を受けて、四月一日、棟方信彦が松山東雲短期大学学長と兼任で学長に就任した。

棟方学長は、一九四八年兵庫県生まれ。一九七二年同志社大学文学部社会学科を卒業。同年株式会社電通に入社、二〇〇五年に退社。この間、一九八四年慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程を修了し経営学修士号取得。指導は鳴口充輝教授。また一九九三年には日本基督教団で牧師資格を取得。電通退職後、二〇〇六年から公立大学法人熊本県立大学総合管理学部にて准教授、教授を務めた。専門は実務経験を生かしマーケティング、

●新学長紹介

犬井 正

(いぬいただし)



獨協大学  
学長

梶山皓前学長の任期満了に伴い、四月一日付で犬井正経済学部教授が学長に就任した。任期は平成二十八年三月三十一日まで。

犬井正学長は昭和二十二年六月二日東京都生まれ。昭和四十八年三月東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了、同年四月東京都立清瀬高等学校教諭を経て、昭和六十一年に獨協大学専任講師、昭和六十三年助教、平成三年教授、平成六年大学院担当教授となり現在に至っている。専門は、農業・農村地理学(経済地理学)。理学博士(筑波大学)。平成十九年より同二十一年三月まで学生部長を、平成二十二年より同二十四年三月まで経済学

秋岡 陽

(あきおかよう)



フェリス学院大学  
学長

宮坂覺前学長の退任に伴い、四月一日付で秋岡陽音楽学部教授が学長に就任した。新学長は一九五四年東京生まれ。一九七九年国際基督教大学教養学部人文科学科卒業、一九八一年シカゴ大学大学院人文科学研究科修士課程修了。音楽関連の出版社に勤務の後、一九九三年よりフェリス学院大学音楽学部専任講師に着任。助教を経て、二〇〇〇年

より同学部教授。同大学音楽学部音楽芸術学科主任、情報センター長、学校法人フェリス学院評議員、同学院理事等を歴任し現在に至る。研究分野は日本近代音楽史、キリスト教音

ブランド戦略、消費者行動論など。共著で『二からの戦略論』『アカウンント・プランニング思考』『最新ブランド・マネジメント体系』など。熊本県立大学在任中は、行政や地域のさまざまな課題を担い、社会貢献に注力した。中でも熊本県に対しては、くまもとブランドづくり及びブランド育成事業などで貢献。

松山東雲女子大学は、四国最初の女子教育機関として百二十六年前に、二宮邦次郎牧師によって創立された松山東雲学園に属する大学であり、キリスト教主義を教育の基礎とする伝統を受け継ぎ、二十年の歩みを続けてきた。本学は人文科学部の一学部であるが、子ども専攻と心理福祉専攻の二専攻からなる。小規模ながら、一人ひとりの学生を大切に、また丁寧な指導し、知性、感性、靈性のバランスのとれた人材を養成し、地域に貢献するべく努力している。学生には、自主性と自立心をもち、自由な姿勢で、自分にふさわしい挑戦を願っている。社会で求められる、有為な人材としての成長余力を発揮できる志を秘めた、心豊かで誰からも愛される学生を育てたいと願っている。

部長を歴任した。また、平成十九年より現在に至るまで環境共生研究所長を兼任している。

専門・研究テーマは、持続的社会システムの研究、マングローブ域の農村システムの研究、東アジアのナラ林文化の研究、エコツーリズムの研究などで、主要著書は『森を知り森に学ぶー森に親しむためにー』（共著、『里山と人の履歴』『関東平野の平地林』『人と緑の文化誌』。社会的活動においては、埼玉県みどりの再生県民会議副座長、彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業立地検討委員会委員長などを務めている。

獨協大学は、平成二十六年の創立五十周年とその後五十年に向けて、これまで「大学改革」と「キャンパス再編」を進めてきた。犬井学長は就任にあたり、「建学の精神の尊重」「活力のある小集団の切磋琢磨と教育・研究への専心」「キャンパス再編と地域社会への貢献」などを大学運営の基本理念に掲げている。多忙を極める学長職にありながらも、担当する授業やフィールドワークにも積極的に取り組んでいる。

楽。主な著作に『自分の歌をさがすー西洋の音楽と日本の歌』（フェリス・ブックス）、共訳に『20世紀の音楽』、『ミラー／新音楽史改訂版』（以上、東海大学出版会）等がある。

新学長は、二〇〇四年の音楽芸術学科の立ち上げでその中心的役割を担い、これまでの「音楽大学」にはないリベラル・アーツ型音楽教育を提供する新しいカリキュラムを導入した実績をもつ（二〇〇五年、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定）。

共学志向が強い昨今、女子大学の置かれている状況は依然厳しいものがあるが、時代の潮流を的確に読み、速やかに改革に踏み出す逸材は、本学の音楽学部を含めた人文系の大学としての舵取りを任せられるに適任である。

学生時代から、水泳、ランニングなどの運動を欠かさない。学生時代からの趣味でもあった音楽と読書は、その後ついに高じて職業に。自身、チェロも演奏する。祖父・秋岡梧郎（日本の図書館学の祖）からリベラルな思想を父・秋岡芳夫（工業デザイナー）から自在な創作発想の感性を受け継ぐ。五十七歳。

## 西間 三馨 (にしまさんけい)



### 福岡女学院看護大学 学長

徳永徹前学長の退任に伴い、四月一日付で西間三馨氏が副学長から昇任した。

(現・北九州市)生まれ。一九六八年九州大学医学部卒業後、同小児科を経て、一九七三年から国立療養所南福岡病院(現・国立病院機構福岡病院)。一九八八年から二十一年間、同病院長を務め、その間、国立重症心身障害協議会長、国立小児医療協議会長、国立病院機構本部審議役、附属看護学校長協議会理事、同九州支部長を歴任した。学芸では日本小児アレルギー学会、日本アレルギー学会の各理事

## 川島 堅二 (かわしまけんじ)



### 恵泉女学園大学 学長

木村利人前学長の退任に伴い、四月一日付で川島堅二氏が学長に就任した。任期は四年。

川島学長は一九五八年生まれ。一九八四年に東京神学大学大学院修了(神学修士)、一九八八年東京大学大学院人文社会学研究科(宗教学・宗教学専攻)修了(文学修士)、二〇〇四年東京大学より博士(文学)を授与される。博士論文は「F・シュライアマハにおける弁証法的思考の形成」(翌年、本の風景社より出版)。  
川島学長は、明治の初期に曾祖父が横浜で宣教師ジェイムズ・バラより洗礼を受けた四代目のプロテスタントキリスト教徒でもある。

## 杉村 芳美 (すぎむらよしみ)



### 甲南大学 学長

甲南大学では、高阪蕙前学長の任期満了に伴い、四月一日付で杉村芳美経済学部教授が学長に就任した。任期は四年、二度目の就任である。

杉村新学長は一九四八年京都市生まれ。一九七一年東京大学経済学部卒業、一九七三年東京大学大学院経済学研究科修士課程を修了、一九七八年同博士課程単位取得満期退学。一九七九年甲南大学経済学部講師に着任。助教を経て、一九八七年教授となり、現在に至る。この間、一九九八年から学長補佐、副学長を務め、二〇〇四年に学長に就任(二〇〇八年三月まで)している。

長を務めた。大学関係では九州大学臨床教授、福岡大学・福岡歯科大学・藤田保健衛生大学の各々の客員教授等で学生・医療スタッフの教育を担当した。

専門は小児医療、障害者医療、アレルギー、疫学であり、特にアレルギーの分野では喘息治療・管理ガイドラインの発刊・定期的改訂に尽力し、長期入院患者や喘息死数の激減をもたらしたことで、「最も成功した治療ガイドライン」としての高い評価を得ている。現在では、総合アレルギー医の育成に精力的に取り組んでいる。また重症心身障害児(者)医療の分野では、国立重症心身障害協議会長を長年務め、開かれた病棟として超重症児の積極的受け入れ、在宅重症児支援、看護力のみならず介護福祉力を強化した障害者自立支援法の導入などにも先導的役割を果たした。

人事院総裁賞、環境大臣賞等を受賞。

現在は開設五年目のキリスト教の愛の精神に基づいたヒューマンケアリング実践を教育の中核に据えた新設看護大学において、次世代を担う優良で人間性豊かな看護師並びに保健師育成に励んでいる。

その志を受け継ぎ、大学院終了後は、日本学術振興会特別研究員や明治学院大学キリスト教研究所研究員として学究の道を歩む一方、日本基督教団の二つの教会で伝道師、牧師として十年間働いた。

恵泉女学園大学へは一九九四年にキリスト教担当の専任講師として就任、以後、同大学においてキリスト教関連科目群を担当して今日に至っている。

学長に就任してからは、「自立した女性を育てる」という教育方針を掲げ、学園の創立者河井道の精神を今日の高等教育によみがえらさべく、河井が戦前の良妻賢母主流の女子教育に対して語った言葉「女性は、結婚しようがしまいが、自分の足でしっかり立ちなさい」という教えを、「内的精神的な自立」(価値観、世界観の確立)、「孤立ではない自立」(協調性、社会性)、「経済的自立」として再解釈し、教育にあたっている。

近著(いずれも共著)に『神学とキリスト教』(キリスト新聞社)、『日本におけるドイツ』(新教出版社)、『ドイツ・ロマン主義研究』(御茶の水書房)などがある。

研究分野は労働の社会経済学。主に労働の意味論、労働観の東西比較。また、現代の経済文化を研究。著書に『脱近代の労働観』(ミネルヴァ書房)、『良い仕事』の思想』(中央公論社)、『職業を生きたる精神』(ミネルヴァ書房)など。

甲南大学は、二〇一一年に開設六十周年を迎えた。現在は、八学部、大学院四研究科、専門職大学院二研究科からなる。新しい学部のうち、知能情報学部は前年度が、マネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部は今年度が完成年度となる。

新学長は就任にあたり、学校法人甲南学園が創立百周年を迎える二〇一九年に向け、創立者平生鈺三郎による建学の教育理念「人物教育率先」の原点に立って、第二の創立の気構えて「教育力の甲南」の評価を確立しようと呼びかけた。

旧制甲南中学校・高等学校以来の伝統の上に、学生一人ひとりと向き合う真摯な人物教育を軸に、人間的交流、社会との交流を通じた教育に力を注ぐとともに、留學生の送り出し、迎え入れにも力を入れたとしている。

# 村上 雅人

(むらかみ まさと)



## 芝浦工業大学 学長

栢植綾夫前学長の後任として、四月一日付で就任した。任期は三年間である。

村上新学長は一九五五年岩手県盛岡市の出身。高校時代にアメリカのサンフランシスコに一年間AFS留学している。一九七九年東京大学工学部金属材料学科卒業、一九八四年同大学院博士課程修了、新日本製鐵株式会社に入社。第一技術研究所で超伝導と形状記憶合金の研究に携わる。その後、超電導工学研究所の研究室長、部長を経て、二〇〇三年より芝浦工業大学工学部材料工学科教授に就任。二〇〇八年四月より副学長を務めている。世界で初めて超伝導による人間浮上に成功

# 石出 信正

(いしでのぶまさ)



## 仙台白百合女子大学 学長

任期満了となった和田美稚子前学長の後を受けて、四月一日より石出信正健康栄養学科学科長が学長に就任した。

石出新学長は東北大学医学部卒業の医師であり、秋田県で研修後、東北大学第一内科で循環器・呼吸器の臨床・研究に従事した。主な研究領域は心臓の収縮メカニズムで、『心力学とその臨床』などの著書がある。第一内科の助教授を務めたのち、仙台徳洲会病院院長を経て平成十四年より仙台白百合女子大学に教授として赴任した。本学では社会福祉法人「仙台白百合会」を設立してキャンパス内に特別養護老人ホーム・グループホームなどに

## 一般社団法人日本私立大学連盟 新役員選出される

### 《会長》

清家 篤 慶應義塾 塾長

### 《副会長》

八田 英一 同志社 理事長・大学長

納谷 廣美 明治大学 学事顧問

### 《常務理事》

仙波 憲一 青山学院 大学長

福原 紀彦 中央大学 総長・大学長

増田 壽男 法政大学 総長・理事長

滝澤 正 上智学院 大学長

楠見 晴重 関西大学 大学長

井上 琢智 関西学院 大学長

日比谷潤子 国際基督教大学 大学長

大塚吉兵衛 日本大学 総長

蟻川 芳子 日本女子大学 理事長・大学長

吉岡 知哉 立教学院 大学総長

川口 清史 立命館 総長・大学長

眞田 雅子 東京女子大学 大学長

飯野 正子 津田塾大学 大学長

鎌田 薫 早稲田大学 総長

し、日経BP賞、超伝導科学賞などを受賞。また、世界最強のバルク超伝導磁石の開発にも成功し、『Nature』に論文が掲載されている。超伝導分野では、論文の引用件数が世界のトップテンに入ったことがある。

著書には、海鳴社から出版している数学のなるほどシリーズをはじめとして、専門書は二十冊を超える。『超伝導の謎を解く』（C&R研究所）などの一般向け啓蒙書や、『ものしくみ大図鑑』（世界文化社）などの監修も行っている。NHKの教育テレビの「エレメントハンター」では企画づくりから参加し、科学監修も務めた。

自身の留学経験から、つねに世界に目を向けることの大切さを学生に訴え、大学の国際化を重要課題の一つに掲げた。

柘植前学長が提唱したPDCAサイクルを大学改革に導入する「チャレンジSIT・90」作戦を継承発展することが重要と考えており、その成功の鍵を、教職協働に置いている。「世界に学び世界に貢献する理工系人材の育成」という建学の精神を尊重し、九十周年を迎える二〇一七年においても元氣な大学を目指す。

の複合福祉施設を建築したが、その理事長の任にもあたっている。現在の研究テーマは「非言語的コミュニケーションと脳機能」であり、特に食を通じたコミュニケーションの脳科学的基礎に興味がある。

内科の臨床経験が長いため人の話を聞くことは得意で、いつも笑顔を絶やさない。病院、福祉法人の経営に従事した経験から、つねに「非営利組織の経営」はどうあるべきか考えている。しかし、営利を第一とする現代日本の風潮の中で悩みは尽きない。

生まれは東京の下町、東京スカイツリーに隣接する本所。せっからで、長い会議、回りくどい文章が大の苦手である。その点では「日本の大学の習慣」になじめていない。

仙台白百合女子大学はカトリックの理念を基盤とする大学で、すべての人々について「一人ひとりの命が輝くように」をモットーとしている。本学では少人数教育を基盤に一人ひとりの学生の人生の物語を大切にし、輝ける青春の四年間を提供し、人を愛し慈しむことのできる女性を育ててゆきたいと考えている。

### 《理事》

- 佐藤 元彦 愛知大学 理事長・大学長
  - 衛藤 卓也 福岡大学 大学長
  - 長尾ひろみ 広島女学院 大学長
  - 福井 憲彦 学習院 大学長
  - 吉沢 英成 甲南学園 理事長
  - 藤岡 一郎 京都産業大学 大学長
  - 赤坂 博 京都精華大学 理事長
  - 森本 三義 松山大学 理事長・大学長
  - 明石 吉三 桃山学院 大学長
  - ミカエル・カルマノ 南山学園 大学長
  - 佐伯 弘治 日通学園 学園長
  - 植木 實 大阪医科大学 理事長
  - G・W・パークレー 西南学院 大学長
  - 岡崎 淑子 聖心女子学院 大学長
  - 星宮 望 東北学院 学院長・大学長
  - 諸澤 英道 常磐大学 理事長
  - 吉岡 博光 東京女子医科大学 理事長
  - 岩本 繁 東京経済大学 理事長
- 《監事》
- 鶴殿 博喜 明治学院 大学長
  - 日高 義博 専修大学 理事長・大学長
  - 市川 太一 修道学園 大学長
- 《参与》
- 古屋 正博 慶應義塾 塾長室長

(任期は平成二十六年度定時総会最終結時まで)